

金光大神贊仰詞

生神金光大神様（先唱者、この一句を唱う）

生神金光大神様と御神号を称えて拝みまつる わが教祖金光大神 実
意丁寧神信心を進め 奇しき神みかげ蒙りたまひ 神と人とあいよか
けよで立ち行く世界の開け行くまにまに 尊き神依さしありて 専ら
御取次仕えたもうこととなりぬ かくて生神金光大神取次の道立ち 救
わるる者数えも尽きず 神の助かり氏子の難なし 神のひれい見え 忝
し 神が一礼申すと神賛えられたまひぬ 時代移り社会は変わり 難き
こと次々に起こりくるも 信心辛抱の徳もて道立てぬきたまえば つい
に天地金乃神その御神名を現したまひ 生神金光大神差し向け 願う
氏子におかげを授け理解申して聞かせ 末々まで繁盛いたすこと 氏
子ありての神神ありての氏子 上下立つようにいたすと神宣らせたもう
教祖金光大神終日取次の座にましまし祈念仕え 参来る人に 信心
しておかげを受け 神になれと説き諭し 一人ひと助ければ一人の神と教
え導き 神願成就に身を尽くさせたまひぬ かくて神からも氏子から
も両方の恩人はこの方金光大神と神賛えられ 百日修行を果たし かね
て仕えたまひてありし金光大神祭日のその日神上がりましぬ 畏しや
教祖の神ありて取次の道は始まり 代を重ねて道は伝わり 直信先覚
先師ありて道はいや広がりぬ ああわれら奇しき神縁を蒙り 限りな
き神恩に浴し ここに教祖百四十年のお年柄を迎えまつる 尊き御
一代を偲び慕いまつりて 御徳を賛え仰ぎまつる。